

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	子ども教育学科		
科目名称	社会福祉					授業形態		講義	
科目コード	750126	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	笠野 恵子							ICT活 用	
授業概要	社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉は、憲法第25条の生存権規定を基盤として、その理念を具体化するべく、体系が築かれている。そして、現在に至っても多くの社会福祉問題を解決を目指して、社会福祉体系は変化を続けている。そこで、変化を続ける社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理について概観する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り、保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を培うことができる。								
関連する科目	保育士資格を取得希望の学生は、履修後は、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「子育て支援」を受講しておくことが望ましい。								
授業の進め方 と方法	新たな内容については、テキストのみではなく、補助的にプリントを作成・配布して、重要な内容をまとめ、講義する。授業の中で随時、関連する科目や以前に本科目で学んだ内容を振り返るために、学生に質問をする対話型の授業を行い、理解を深められるようにする。また、数回の小テストを行い、理解度を確認する。								
授業計画 【第1回】	第1回 オリエンテーション・社会福祉とは。 社会福祉の理念と定義・概要について学ぶ。								
授業計画 【第2回】	第2回 人口動態から見た日本社会の将来 少子高齢社会から考える日本の将来について、理解し話し合う。								
授業計画 【第3回】	第3回 保育者と社会福祉 保育と社会福祉、保育者と社会福祉について学び、話し合う。								
授業計画 【第4回】	第4回 社会福祉の捉え方とその意義 社会福祉の構成要素を学び、社会福祉は何を大切に考えてきたかを理解する。								
授業計画 【第5回】	第5回 社会福祉の概念と理念 社会福祉の法体系から子どもの人権擁護、権利保障の仕組みを学ぶ。								
授業計画 【第6回】	第6回 社会福祉の歩み 社会福祉の源流、外国と日本の社会福祉の歩みを学ぶ。								
授業計画 【第7回】	第7回 社会福祉と子ども家庭福祉の関係 子ども家庭福祉の特性と家庭支援の必要性を学び、社会福祉との関連性を理解する。								
授業計画 【第8回】	第8回 社会福祉の制度と実施体系 憲法25条を中心に、社会福祉と憲法との関連性について学ぶ。								
授業計画 【第9回】	第9回 社会福祉制度の法関係 社会福祉三法の成立から社会福祉八法改正に至るまで社会福祉に関する法律について学ぶ。								
授業計画 【第10回】	第10回 社会福祉行政と実施機関 社会福祉の行政機関を中心に社会福祉の財政について学ぶ。								

授業計画 【第11回】	第11回 社会福祉の専門職 社会福祉の専門資格の種類と主な専門職の位置づけについて学び、仕事内容を理解する。
授業計画 【第12回】	第12回 社会保障及び関連制度 社会保障制度とは何か、公的社会保障の体系と民間の社会保険について学ぶ。
授業計画 【第13回】	第13回 社会福祉における相談援助 相談援助の意義と役割を学び、相談援助について理解する。
授業計画 【第14回】	第14回 ソーシャルワークとは何か ソーシャルワークの意味を理解し、その役割と機能を学ぶ。
授業計画 【第15回】	第15回 社会福祉を取り巻く今後の課題 社会福祉を中心とした今後の世界の情勢、日本の状況を予測し、今後の課題を検討する。
授業の到達目標	1. 教育者・保育者として社会福祉の概念、理論を正しく理解する。【知識・理解の獲得】【コミュニケーションスキルの育成】 2. 自分の価値観ではなく法制度や対象となる人や特別な配慮を要する子ども、保護者、しょうがいをもった人を理解し、援助方法について理解を深める。【生涯学習力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	【予習】 ・現代社会の状況について関心を持ち、日頃からニュース等をチェックすること。 ・授業で用いる資料や必ず指定した教科書を事前に熟読し、次回の講義内容を把握しておくこと。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	【復習】 各回で具体的に指示。シラバスにない場合は授業中に指示する。 授業内で、小テストを3回程度実施するので、その内容を確認、復習しておくことが中心となる。(約1時間)
課題に対する フィードバック	小テストは評価後、返却及び解説をする。 定期試験は試験後に解説する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 小テスト (30点) 2) 定期試験 (40点) 3) レポート、授業内での発表などの参加意欲-30点
テキスト	・教科書名：『改訂2版最新保育士養成講座』社会福祉 ・著者名：『最新保育士養成講座』総括編集委員会 ・出版社名：全国社会福祉協議会・出版年 (ISBN)：2026 (978-4-7935-1462-3)
参考書	・保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典 ・著者：中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹 ・出版社：ミネルヴァ書房・出版年 (ISBN)：2021 (978-4-6230-9084-6)
備考	